

# 移植ツーリズムの深い闇

第1回

高橋幸春

渡航移植——。  
日本国内でドナーを見いだすことは極めて困難なために、海外で心臓、肝臓、腎臓の移植手術を受けることだ。

渡航移植の実態については厚生労働科学研究費補助金で行った「渡航移植者の実情と術後の状況に関する調査研究」（二〇〇六年三月）がある。

これによると調査は、心臓移植は国内一七施設、肝臓移植は二三施設、腎臓移植は一五四施設を対象とし、調査期間は二〇〇六年一月から三月まで。心臓移植の渡航先はアメリカ合衆国が中心だ。

肝臓移植を受けて通院している患者二九八二人のうち、渡航移植者は二二一人（七・四％）。渡航先は、オース

トラリア（二〇施設）、アメリカ合衆国（一九施設、中国（二四施設）の順。  
腎臓移植を受けて通院している患者八二九七人中、渡航移植者は一九八人（二・四％）。渡航先は、中国（四八施設）、フィリピン（二〇施設）、アメリカ合衆国（一八施設）の順。  
心臓移植とは異なり、肝臓、腎臓の移植は幹旋組織、紹介者についての回答が得られないものが多かったと報告している。

なぜこんな卑劣な詐欺が横行するのか？

## 異和感のある日本語

回答しなかった幹旋組織や紹介者を通じて、実は多

く患者が海外で移植を受けているのが現実だ。それには高額な移植費用が伴い、私がこれまで取材してきたケースのほとんどが臓器売買といってもいいだろう。

移植幹旋組織は、当然のことだが外国人の移植を引き受ける渡航国の幹旋組織、病院と密接な関係を築いている。これから明らかにする幹旋組織Tとその代表者Nがそのいい例だ。

Nが組んだのはパキスタンの病院での移植を幹旋する海外の組織だった。その組織は日本語でもドナーとレシピエントを集めていた。

「腎臓を販売したい場合は、私たちの電子メールで私たちに連絡してください」（原文ママ）

サイトの冒頭には赤い文字でこう書かれていた。さらにその後メールアドレスが記載され、アドレスのドメインはロシアを示すruだ。

その一方で腎臓移植希望患者を募る説明も続く。

「もしあなた、またはあなたの親しい人は腎臓移植が必要ですが、提供候補者がいなくて困っている場合は、是非うちのサイトをご覧ください。そうすれば命を救うことになるかもしれません。当サイトではどうすれ

ば適合するドナーが見つけれられるのか、どこで腎臓移植手術が受けられるのか調べられます。」（原文ママ）

どことなく違和感のある日本語の説明だ。自動翻訳機を使ったか、あるいはそれほど日本語が上手ではない通訳の翻訳なのだろう。

ロシア、あるいはロシア語圏内に拠点を置く国際的な臓器移植幹旋組織と、日本の幹旋組織Tとが組んで、パキスタンの病院で移植を受けた日本人は七人病院といっても民家を改造したクリニックだ。私は七人のうち四人の連絡先をつかみ、三人に直接話を聞くことができた。移植までの経緯は、現代ビジネス「講談社」に書いた。記事の連載中に共同通信もパキスタンでの移植について報道し、Nが代表を務める幹旋組織Tのホームページは閉鎖に追い込まれた。

Nはパキスタンの前はベトナムで移植を行い、現地の病院、日本人レシピエントとの間でトラブルを起し、ベトナムでの移植の道を閉ざされていた。ベトナムの前は中国で移植幹旋を行い、Nは中国当局によって逮捕されている。

二〇〇七年九月、中国瀋陽市公安局は「臓器売買を禁止する衛生省規定に違反した」などとしてNを逮捕

●たかはし・ゆきはる 1950年埼玉県生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。1975年から78年までブラジル在住。著書に『蒼氓の大地』（講談社文庫）、『日系人の歴史を知ろう』（岩波ジュニア新書）、『透析患者を救う！ 修復腎移植』（彩流社）など。麻野涼のペンネームで小説も執筆している。著書に『死の臓器』（文芸社文庫）。同書は2015年 WOWOW でドラマ化された。